

校名：群馬大学教育学部附属小学校

所在地：〒371-0032 群馬県前橋市若宮町二丁目8番1号 電話番号：027-231-5725

記載日： 28年 5月20日 記載者：今井 東 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

開校67年を迎え、卒業生はこれまでに約1万人を数える。本校の卒業生は、社会人となった後は、地元群馬はもとより、県外でも多方面で活躍している。教育学部の附属小学校として、学部との連携を密にし、教員養成に大きな役割を果たすと共に、絶えず時代の要請も念頭に置き、県内の学校に対して先導的な実践を公開している。さらに、本校で勤務した教職員を県内各地の行政機関に送り出し、群馬県の教育の進展に大きく寄与している。

本校は、学校の教育目標を「つよく ただしく かしこく」とし、子どもたちが、主体的・創造的に課題に取り組み、解決できる力を身に付けることができるよう日々指導の改善充実を図っている。また、子どもたちが、社会や集団の一員として他者と協力してよりよい生活を築いていけるようにするために、学年別オリエンテーリングや林間・臨海学校などの諸行事も伝統的に行っている。これらの行事も通じて、子どもたちに豊かな道徳性や、困難に打ち勝つ強い心と健康な体を育成するべく教育を展開している。

本校のシンボルは、校庭にそびえる大きな「くすの木」である。子どもたちがこの木を毎日見つめながら、くすの木のように自分自身の枝を大きく広げ、葉を茂らせてくれることを願っている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

詳しく追跡調査はしていないが、大手企業や銀行等に就職して活躍していること、また、医師などとして活躍していることを卒業生が集まる同窓会の席などでたびたび聞いている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡調査はしていないが、本校勤務経験者の多くが、県内各地の教育委員会等で活躍している。また、各学校の管理職や研究主任等として、学校の運営的な立場で活躍を見せている。具体的な活躍の様子についての情報は、附属学校園の校長・副校長が毎年度はじめに行っている県内各教育委員会への挨拶訪問の際に、それぞれの教育長等から伺っている。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○教育実習以外での大学との連携での大きな特色は、平成22年度より教育学部と連携して、次の3つのセンターを運営していることである。学部の教員養成と教育研究の充実、地域貢献を目指して設置した機関である。

1. 「子ども総合サポートセンター」

子ども総合サポートセンターは、発達障害、学習の遅れ、いじめ、不登校など、様々な課題を抱える子どもたちを教育・発達・心理・医療の側面から総合的に捉え、学校の教育力向上という視点から支援することを目的としたセンターである。

教育学部、附属小学校、附属特別支援学校が中心となり、医学部付属病院、群馬県教育委員会と連携して運営している。昨年度の主な事業としては次の通りである。

(1) 地域支援

- ①訪問相談：63ケース（5校）実施
- ②研修支援：公開研修会開催（2回）、群大公開講座（2回のべ62名参加）
- ③個別・グループ・集団指導：6ケース（個別・グループ指導9回）
- ④養育相談：5ケース（のべ17回）実施

(2) 基盤研究・研修

- ①「学習のユニバーサルデザイン」の考え方に基づく授業実践
- ②「交流及び共同学習」の在り方に関する研究

2. 「教員養成FDセンター」

教員養成FDセンターは、学部新任教員を中心とする教員の資質能力の向上と組織成長に向けた教育支援施策の企画・開発・援助を目的としたセンターである。昨年度の主な事業としては次の通りである。

(1) 公開授業参観

学校現場での学習指導及び授業研究会を参観する機会として、附属小学校の公開研究会を参観した。また、授業後の授業研究会を通して、学部教員と現場の教員両者にとって、大きな成果をあげることができた。

(2) 教育サロン（教育談話会）の開催…年2回

学部新任教員を囲み、附属小学校公開研究会を参観した感想発表や意見交換を行った。また、附属小学校委員が、「附属小における授業の実際と授業研究の概要」や「附属小における教育実習の概要と課題」について発表をし、討議を行った。

(3) 教育実習の見学、授業参観

教育実習において教育実習生の授業参観を実施した。また、教育実習生に対する指導教員の指導の様子も参観すると共に、教育実習についての意見交換を行った。

3. 「学部・附属学校共同研究推進センター」

学部・附属学校共同研究推進センターは、「群馬大学教育学部教員が所有する専門的知識と附属学校園教員が所有する経験的知識を活用し、群馬県内の優れた教育実践の言語化を通して研究成果を公開し、教育諸機関の教育力の向上に寄与する。」である。地域に向かって、教育のあり方、授業のあり方の提言を行うとともに、教育諸機関を結びつけるコーディネーター役を務めることを目的としたセンターである。昨年度の主な事業としては次の通りである。

(1) 各教科等研究部の提案授業公開

本校各教科等研究部が研究の具現化を目指して行う提案授業研究会の公開を学部教員の研究協力により実施した。(各教科・領域 計11回)

(2) 群馬県教育委員会との連携

- ①平成27年度「基礎基本習得のための実践研事業」(県教委主催の公開授業)に参加
- ②県教委が作成した「はばたく群馬の指導プラン」への実践例の提供・作成協力

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

学校の位置する前橋市だけでなく、群馬県内の公立学校から先導的な取り組みを進めている学校として十分に認知されている。毎年開催している公開研究会には、前橋市内の全ての学校から教職員が参観に訪れ、自校の研究や指導力の向上に役立てていただいている。

また、前橋市が主管する初任者研修や群馬県総合教育センターが主管する初任者研修の講座としても本校の公開研究会が使われ、地元前橋市や群馬県の教職員の資質向上に大きな役割を果たしている。

以上のように、教職員の資質向上のための研修の場として、多くの行政機関や教職員からの信頼を得ていると言える。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校は開校以来、伝統的に群馬県や前橋市のモデル校としての役割を担い、いつの時代にも積極的に、あるべき小学校教育の姿を提案してきた。そのことが、県内の教育の進展に大きな影響を与えてきた。また、大学の研究者の理論だけではなく、本校の教員が提案する授業実践や教科指導のポイントは、これまで多くの公立学校の教員に受け入れられてきた。そのことは、本年度実施した公開研究会でも同様で、教科化となる道徳や英語教育の指導のあり方を本校がどのように考えているかについての関心はたいへん高く、これら二つの授業への参観者は非常に多かった。

近年は、私学においても教員養成課程をもつ大学も多く見られるが、教育実習についてのノウハウをしっかりとっている附属学校で教育実習を行えるのは、教師を目指す学生にとってもメリットは大きく、附属学校での実習がその後の教員生活を送る上での礎になっていると、本校で教育実習を行った経験をもつ教員は話している。

さらに、本校では、在職期間6年から10年くらいで行政機関や公立学校に転出する教員が多いが、本校で培った指導力（教科指導の力や研究を推進する力など）で、本校転出後、その力を遺憾なく発揮している。指導主事としてその地域の学校を訪問し適切な助言を行ったり、公立学校の核となって研究を推進したり他の教員に授業の模範を示したりしているといった現状である。

本校は現在、県教委を始め、県の総合教育センター、あるいは県内各地の市町教委とも連携を密にしながら、本校に優秀な教員を送っていただいたり、また、本校で育てた教員を送り出したりという良好な関係を築いている。このような双方向の良好な関係の中で、群馬県内各地の教育の発展、あるいは県内各地域の教職員の指導力の向上に本校は大きく貢献している。

以上のようなことから、本校の存在意義はたいへん大きいものと自負しているところである。